

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所は、『あおぎり荘は地域（芦塚下田地区）の一員です』と理念を掲げ、密着することよりも、一員として浸透化することに意識を向けるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域行事には全て参加し、日頃からも近所の方々とお会いした場合は、挨拶するように心掛けている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や事業所のイベント等を介して、家族や地域の方々に、ホームの理念を説明し、ご理解を頂くように努めている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームで所有する畑を切っ掛けに、近所の方々とも話をする機会を作り、アドバイスやご協力を頂くように努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム自体が一つの隣組として芦塚区の自治体に参加しており、敬老祭や運動会等に参加させていただいている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の寄り合いに介護教室の講師役としてスタッフが参加させていただいている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価は、日常の業務の見直し の場として活用し、更なるサービスの向上を 目標に良い点は更に伸ばし、改善点は早急に 修正するように取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価前後に開催している会議では、評価の意 義や結果報告等を行い、所感やアドバイスを 頂くようにしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	久留米市長寿介護課の担当者とは、日頃から 積極的に連携を図るように努め、情報の共有 化に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて制度を効果的に活用できるよ う、外部研修会等に積極的に参加するよう 心掛けている。	○	成年後見制度等の内部研修会を開催し、ス タッフ全体への周知に取り組んでいきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては、外部研修会に参加し、 日頃からの虐待の実態について学ぶように努 めている。	○	全スタッフへの周知徹底を心掛けたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関しては、必ず本人又は、家族と面 談し、疑問や不安等に対し納得されるまで時 間をかけて説明を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接スタッフに話しにくいことは、管理者やケアマネージャーが伺うよう心掛け、又、苦情受付箱を設置し、匿名でも意見が頂けるように取り組んでいる。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	受診状況や、金銭の収支等、面会時や電話を通じて報告を行っている。又、月に1回手作りのホーム便りを発行し、情報を提供している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置したり、面会時等を通じて、個別に語彙検討の確認を行っている。又、6ヶ月に1回、家族宛のモニタリング用紙を送付している。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や研修等を通じ、スタッフの意見を積極的に取り入れるように努めている。又、年に2回、個別に面接を行い、1対1で話すことができる機会を設けている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の心身の状況に合わせて、夜勤体制を2名にしたり、スタッフの急な休みにも対応できるように人員を確保している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間、事業所間での人事異動は行わず、同一のスタッフが継続したケアをできるように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用に関しては、原則として、特別な制限を設けておらず、スタッフの年齢層も偏りは見られない。 自己実現に関して、資格取得の意思があるスタッフには積極的にサポートするように努めている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権啓発強化月間に合わせて、内部研修会を開催するなどして、人権啓発に努めている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務・経験年数や、能力に応じた役割の分担を心掛け、外部研修でもスタッフが行きたいと思う研修には極力参加できるようにサポートしている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター圏域内の事業所で交流会・研修会を開催したり、個人的に他の事業所に訪問し、情報の交換・共有など、相互研鑽に努めている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会や交流会、スポーツ大会を実施し、ストレスの蓄積予防に取り組んでいる。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を導入し、業務に取り組む姿勢を正當に評価できるように努め、意欲の促進に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	状況や必要に応じて可能な限り本人と面談を数回行っている。その中で、不安に感じていること、困っていることの把握に努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学を兼ねて来荘していただき、家族の不安や要望を時間をかけて聴くように努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスの情報を説明し、希望等があれば、各関係機関へ連絡調整・相談を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	来荘時に他の利用者やスタッフと共にお茶を飲んで過ごして頂いたり、本人が使用されていた生活用品を持参して頂き、少しでも馴染んで頂けるような雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの過去の生活歴等を参考にしながら、できる事はお手伝いして頂き、時には教えて頂いたり、アドバイスをもらったりしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族関係が継続できるように、密な情報提供を行ったり、レクリエーション参加を促したりし、共に支援していく姿勢を心掛けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や宿泊、外出や外泊は、随時希望に沿って行っていただいている。又、生活上判断が必要な場合には、家族へ相談し、家族の役割を担っていただくように努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人や、近所の方の面会等、本人の希望に応じて訪問したりと、関係が継続できるように支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	集団生活の中で関係の良し悪しがある方に対しては、スタッフが介入したり、席次に留意したりと、孤立しないように配慮している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後も、遊びに来てもらったり、相談を受けるなどして関係の継続ができています。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、生活の中での表情や言動をもとに、潜在的な思いの把握に努め、随時検討している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを介しながら情報収集に努めているが、あまり明確でない場合には、家族の許可を得て、面会に来られた友人や民生委員等に伺うようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別の生活リズム表を作成し、一人ひとりに合わせた生活リズムの確立、習慣を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聴取した上で、ユニット内でカンファレンスを行い、利用者本位の介護計画書を作成するよう心掛けている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間内に状態の変化が見られた場合にも、随時内容の見直しを行い、状態に合った計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの介護記録に状態の変化や、日々の様子、ケアプラン実施状況等を記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じて、外出や外泊を行ってもらい、その際の送迎も可能な限り対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の定期的な面会や、運営推進会議を介して、秋祭りや避難訓練を行う際に、婦人会・区長・消防署の協力を得ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他のグループホームのケアマネージャーにアドバイスを頂いたり、家族の意向や本人の状態に合わせて、福祉用具サービスや、理美容サービスが使えるように支援している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいております。状況報告並びにアドバイスを仰いでいます。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族・本人へかかりつけ医を確認し、希望される医療機関を受けている。又、状態によって他科受診が必要と思われる場合には、必ず家族の意向を確認している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	基本的に主治医へ相談、アドバイスを受けているが、必要に応じては連携していただいている。専門医への随時アドバイスを受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師と委託契約している。看護師との密な情報交換により、異常の早期発見・早期対応ができています。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	可能な限り、ほぼ毎日面会に行っており、本人の不安を解消するように努めている。又、面会時には、担当看護師や医師へ状態確認・情報収集等に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・家族の意向を確認しつつ、本人にとって終末期をどう過ごしていただくかをカンファレンスを通じて、確認・共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族関係の継続・役割を大事にしつつ、主治医・看護師・介護スタッフが各役割を認識しながらチームケアを行っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	変えられる居住先へ、個人情報に配慮をしながら情報の提供を行い、生活環境や介護内容が少しでも継続されるよう努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する態度や言葉遣い等は、スタッフ同士で互いに注意しあうように心がけ、申し送りや連絡事項の際にも、他の利用者へ不要な情報が入らないように注意を払いながら行っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との共有空間の中で、表情や反応を通じて希望や意向を見極め、それに沿った支援を心掛けている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側の業務優先とならないよう、一人ひとりに合った個人の生活リズムを尊重し、臨機応変に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望や意向だけではなく、意思伝達が難しい利用者も、化粧品や洋服には配慮し、理美容も可能なサービスをできる限り選んで利用していただけるように支援している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態や能力に応じて準備・片付けを一緒に行っている。又、職員と会話をしながら食事をし、明るい雰囲気作りに努めている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好に関しては、家族・主治医にも相談し、可能な限り本人の希望に沿えるよう配慮し、一緒に買物に行くなどしている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄確認表を作成し、個人の排泄パターンの把握に努めている。排泄に介助を要する利用者に関しては、時間を区切り、誘導を行うことでトイレで排泄できるように取り組んでいる。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後入浴となっているが、利用者の希望や、生活のペースに沿って、午前中や夕方の時間帯も対応している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状態やリズムに合わせ、昼食後の昼寝や、夜寝つきが悪いときには、お茶を飲みながらスタッフと談話したりと、安心して休息を取っていただけるように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物や掃除、歌や踊りなど、家事や趣味など、生活歴や能力に応じたことができるように配慮し、活動的に日常を送っていただけるように支援している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理しているが、希望される場合には、家族の了解を得て、所持してもらうようにしている。 所持している金銭に関しては、本人の意思で使用できるように支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回程度、バスハイクに出掛ける他、日常買物を希望される場合は、一緒に出掛けたり、天気の良い日は散歩に出たりしている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉施設や花見、外食等に、職員が同行し、家族と一緒に出かけたりしている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は、時間帯に合わせて対応し、手紙はご家族にも書いていただけるようお願いし、字を書くことが困難な利用者には、スタッフが代筆するなどして支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	都合により夕方以降にしか面会に来ることができない方の為にも、面会時間帯の制限は設けていない。来訪された場合には、共有空間・居室どちらでも会話を楽しんでいただけるようお茶や椅子をお出ししている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けて、マニュアルを作成したり、内外部の研修会へ積極的に取り組んだりしている。 日常のケアの中で、無意識に身体拘束を行っていないか確認している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全上、21時から、翌朝6時半までの時間帯は、施設内の戸締りを行い、それ以外の時間帯は、原則として一切施錠は行っていない。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にスタッフ間で言葉での情報交換を行いながら、利用者の継続的な位置確認を行っている。又、夜間時は定期的に巡回を行いながら安全確認を実施している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類はスタッフが一律に管理し、必要に応じて利用者へ貸し出したり、一緒に使用したりしている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	様々なアクシデントに応じた研修会や訓練等を実施し、知識や技術を全スタッフで学びながらリスクマネジメントに取り組んでいる。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全スタッフに年に1回の救急救命講習の参加を義務付け、継続した訓練の実施に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施し、避難方法や避難経路等を確認している。水害や震災に備え、水や非常食を確保し、災害用の必要物品も常備している。 今年の7月末の大雨の際は、避難警報が出る前に独自に同法人内の事業所へ避難した。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	電話で報告したり、家族が来荘された際に、状況報告や今後の方針等、予測されるリスクなどを説明し、利用者が希望される暮らしが営めるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色や食事摂取量等、日頃から状態の変化に注意を払い、少しでも違和感を感じた場合は、他のスタッフに報告・相談を行い、必要であればバイタル測定を実施する等の対応を行い、異常時の早期発見に努めている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに処方箋を貼布し、職員全員が常時すぐに閲覧できるようにしている。又、服薬支援では、薬入れにも個人の名前を記入し、誤薬防止に取り組んでいる。新たな薬が処方された際には、薬の効果や、服用することにより起きる副作用等も把握し、スタッフへの周知に努めている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃より、小まめな水分摂取を心がけ、午前中にヨーグルトや牛乳等をお出ししている。マッサージや運動を行い、できるだけ自然排便ができるように支援し、必要に応じて主治医へ相談し、下剤等を処方して頂きコントロールしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行い、利用者の状態に合わせ、見守りや介助を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に合わせて食事形態を工夫し、食事・水分の摂取量を随時把握できるように取り組んでいる。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内の感染症予防マニュアルを作成し、内部研修会を実施するなどして、全スタッフの周知徹底に努め、感染予防策に取り組んでいる。インフルエンザの予防接種は利用者・スタッフ共に全員実施を原則としている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等は毎回漂白・消毒を行い、清潔保持を心掛け、冷蔵庫のチェックは定期的に行い、消費・賞味期限の確認をし、安全管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りや室内等、季節の花や飾り付けを行い、四季折々の雰囲気演出するように心掛けている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度調節や調光には常時注意を払い、必要に応じて適時調整している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチの位置に配慮して、一人で日光浴できる場所や、2~3人で談話できるようなスペースを作っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた家具や寝具、身の回りものなどをできるだけ使用していただき、家族にも助言をいただきながら、安全面を考慮した配置を工夫している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時等の時間を使い、定期的に空気の入れ替えを実施している。 温度計を設置し、室内温度には十分に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、その他必要な部分には手すりを設置し、歩行時に障害とならないように、椅子やソファの位置も配慮して置くようにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口には表札を付け、衣類が混在しないようにタグ部分等の目立たない場所に名前を記入している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩や日光浴が楽しめるように配慮するほか、畑で、芋掘りなどの家庭菜園を楽しんでいただいている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型サービス事業所として、文字通り『地域に密着した』ホーム作りに力を注いでいます。運動会や敬老祭、ゴミ拾いなどの地域行事には積極的に参加させていただき、ホームのお祭り際には、保育園・婦人会をはじめとする地域住民の方々にご協力を頂いています。ホームで運営している畑を周辺住民の方々との橋渡し役として活用し、地域の皆様方からも暖かくご支援を頂戴しています。アピールポイントとして、何よりもこのホーム周辺の環境と、地域住民の皆様方との信頼関係が、私達の宝物だと思っています。

ケアの面では、利用者にとって、介護を行うスタッフも大きな環境要因の一つであると考えていますので、スタッフの配置に配慮し、離職や異動を極力無くすように努め、できるだけ同じスタッフが長く同じ利用者と接することができるように取り組んでいます。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所は、『あおぎり荘は地域（芦塚下田地区）の一員です』と理念を掲げ、密着することよりも、一員として浸透化することに意識を向けるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域行事には全て参加し、日頃からも近所の方々とお会いした場合は、挨拶するように心掛けている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や事業所のイベント等を介して、家族や地域の方々に、ホームの理念を説明し、ご理解を頂くように努めている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームで所有する畑を切っ掛けに、近所の方々とも話をする機会を作り、アドバイスやご協力を頂くように努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム自体が一つの隣組として芦塚区の自治体に参加しており、敬老祭や運動会等に参加させていただいている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の寄り合いに介護教室の講師役としてスタッフが参加させていただいている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価は、日常の業務の見直し の場として活用し、更なるサービスの向上を 目標に良い点は更に伸ばし、改善点は早急に 修正するように取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価前後に開催している会議では、評価の意義や結果報告等を行い、所感やアドバイスを頂くようにしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	久留米市長寿介護課の担当者とは、日頃から積極的に連携を図るように努め、情報の共有化に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて制度を効果的に活用できるよう、外部研修会等に積極的に参加するように心掛けている。	○	成年後見制度等の内部研修会を開催し、スタッフ全体への周知に取り組んでいきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては、外部研修会に参加し、日頃からの虐待の実態について学ぶように努めている。	○	全スタッフへの周知徹底を心掛けたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関しては、必ず本人又は、家族と面談し、疑問や不安等に対し納得されるまで時間をかけて説明を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接スタッフに話しにくいことは、管理者やケアマネージャーが伺うよう心掛け、又、苦情受付箱を設置し、匿名でも意見が頂けるように取り組んでいる。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	受診状況や、金銭の収支等、面会時や電話を通じて報告を行っている。又、月に1回手作りのホーム便りを発行し、情報を提供している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置したり、面会時等を通じて、個別に語彙検討の確認を行っている。又、6ヶ月に1回、家族宛のモニタリング用紙を送付している。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や研修等を通じ、スタッフの意見を積極的に取り入れるように努めている。又、年に2回、個別に面接を行い、1対1で話すことができる機会を設けている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の心身の状況に合わせて、夜勤体制を2名にしたり、スタッフの急な休みにも対応できるように人員を確保している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間、事業所間での人事異動は行わず、同一のスタッフが継続したケアをできるように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用に関しては、原則として、特別な制限を設けておらず、スタッフの年齢層も偏りは見られない。 自己実現に関して、資格取得の意思があるスタッフには積極的にサポートするように努めている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権啓発強化月間に合わせて、内部研修会を開催するなどして、人権啓発に努めている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務・経験年数や、能力に応じた役割の分担を心掛け、外部研修でもスタッフが行きたいと思う研修には極力参加できるようにサポートしている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター圏域内の事業所で交流会・研修会を開催したり、個人的に他の事業所に訪問し、情報の交換・共有など、相互研鑽に努めている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会や交流会、スポーツ大会を実施し、ストレスの蓄積予防に取り組んでいる。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を導入し、業務に取り組む姿勢を正當に評価できるように努め、意欲の促進に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	状況や必要に応じて可能な限り本人と面談を数回行っている。その中で、不安に感じていること、困っていることの把握に努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学を兼ねて来荘していただき、家族の不安や要望を時間をかけて聴くように努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスの情報を説明し、希望等があれば、各関係機関へ連絡調整・相談を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	来荘時に他の利用者やスタッフと共にお茶を飲んで過ごして頂いたり、本人が使用されていた生活用品を持参して頂き、少しでも馴染んで頂けるような雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である知恵を、日々の生活の場面で見聞きし、活用させていただいている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃より連絡を密に取りながら、報告・相談することで、利用者本人の状況を把握・共有しながらケアを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の今までの関係を理解し、今後の良い関係への橋渡し役を務めるよう努力している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望される場所や人などを自由に言い合える環境作りに努め、日頃からのコミュニケーションを心掛けて、自由に面会や外出・外泊をさせていただいている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者同士の相性などを考えて食事の席を決めたり、交流を深めることが出来るよう会話の橋渡し役になるように心掛けている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去される際には、退居後の行き先等を家族と十分に話し合い、退居後も情報提供をするなどの支援をしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から積極的にコミュニケーションを図り、個々の思いや意向を尊重し、スタッフ間でも情報交換をしながら周知するように心掛けている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴・生活習慣等の把握に努め、新たな情報があれば、スタッフ間で情報を共有するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のペース・健康状態に合わせ、コミュニケーションを図りながら接するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族からの情報をスタッフ間で共有し、意見交換の場を定期的に持つようにして、介護計画に反映している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間以前に本人・家族の要望、又は、本人の状態変化等のある場合には、現状に応じた介護計画の見直しをするようにしている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にその日の様子や、ケアの実践・結果、気づきなどを個別に記録し、情報を共有して、日常のケアや見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外泊時には、家族の希望により、スタッフが送迎するなど、必要に応じて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域密着型サービス運営推進会議等を介して、民生委員・婦人会等の連携を図り、消防署には避難訓練や救急救命講習指導等の協力を得ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて適切なサービスが提供できるように、他のケアマネージャーへ相談している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターからも参加していただき、相談したり、アドバイスをいただくなどしている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にしながら、希望される主治医のもと、適切な医療を受けられている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と密な情報交換や、協力医への相談を行い、適切な指示・助言を仰いでいる。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師によって利用者の健康管理や医療活用が成され、相談しながら情報の共有等に努めている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は極力毎日面会に伺うように努め、入院中の不安解消を図っている。又、病院側と連携を図り、早期退院へ向けて支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃より、主治医との協働にて健康管理をしながら、将来の方針など話し合いが出来て共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	安心・安全を一番に確保し、チームで出来る最善の支援を、かかりつけ医と相談しながら無理のない範囲で対応している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居時には、最小限のダメージとなるように十分な情報交換を行い、家族や主治医、スタッフ等で対応法を検討している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーの確保・記録等の個人情報の取り扱いも含め、スタッフ間で周知・確認し合っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	相手の表情などを言葉掛けで読み取り、自己決定できる場面を工夫して作るようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のやりたいことが優先して出来る支援を心掛けており、散歩したいときや、入浴したい時など、合わせる事が出来るように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人・家族の希望に沿って、理美容を支援している。身だしなみは、自分で出来る方は自分でしていただけるよう促し、出来ない方は、本人の意向を尊重しながら支援している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対面式の台所で、食事作りから利用者の方々と会話をしながら行い、食事・片付けも出来る範囲で一緒に行っている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好に合わせておやつ・飲み物を提供している。 喫煙をされる方は現在居られないが、飲酒に関しては、お祝いの席などで提供したりしている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンや、習慣を熟知し支援している。又、オムツの使用はスタッフで十分に検討し、本人の能力に応じて判断し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って支援している。 入浴を好まれない方には、無理強いをせず に、言葉掛けや対応を工夫し支援している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣・体調やその時の状況 に応じて支援し、本人にとってベストな生活 のリズム作りに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で、お手伝いをお願いしたりして、笑顔を引き出せる声掛けなどを工夫して、一人ひとりの生活歴や能力を活用できるように支援している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は、本人が希望される場合、家族へ相談し、了承をいただける場合は行っている。又、本人の希望に応じて買物支援などを行っている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望があれば、出掛けるように支援している。又、バスハイクや買物等を実施し、社会と関わりを持って生き生き生活できるように支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族親睦会を実施し、家族と一緒に食事を楽しんでもらうなど、一人ひとりの希望に沿って支援している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話したり、手紙を出されたりしている。又、関係が希薄化しないように、来訪に来る機会の少ない家族に、電話を掛けていただいたり、手紙を書いていただけるようにはたらきかけている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人など、いつでも訪問していただけるように、明るい対応を心がけ、お茶をお出ししたり、居室にご案内するなどして、ユックリ寛いでいただけるように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けた講習会を実施するなど、廃止に向けた職員のスキルアップに努めている。	○	利用者個人の安全性を考慮し、家族に説明、了解を得た上で、一時的にベッド柵を使用する場合もあるため、今後は撤廃に向けての取り組みを実施していきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、21時から、翌朝6時半迄施錠しているが、それ以外は玄関・居室等一切施錠しない取り組みを実施している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守りが行いやすい場所を考慮しながら、スタッフが声を掛け合い、連携を図って利用者の位置の把握・見守りの連携に努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	感情の起伏が大きい利用者には刃物・洗剤・薬品等を保管・管理しているが、状況に応じて検討し、取り組むようにしている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人全体で事故防止検討委員会を設置し、事業所間で情報を共有しながら、カンファレンス等で個々に起き得る事故に対する予防策を検討し、全スタッフの周知徹底に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回の救急救命講習を三潁消防署に依頼し、全スタッフ対象に行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スタッフのみでの避難誘導の限界を踏まえ、運営推進会議に参加していただいている区長・民生委員の方々にも、有事の際のご協力をお願いしている。避難訓練にも定期的に参加・見学していただいている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時には必ず近況報告をし、併せて起こり得るリスクについて説明を充分に行い、家族にご理解を頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックの測定値だけではなく、日常の行動の変化・体調面の異常等を気付くように日頃より状態観察をし、スタッフ間で共有している。又、異常時は看護師・主治医等に指示を仰いでいる。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬状況シートを作成し、薬の目的や副作用・用量など理解できている。服薬変更時は確実に申し送りをして、症状の変化を観察・記録し、看護師・主治医と連携を図っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者に応じて飲食物を提供し、水分量を多く摂っていただけるように促し、便秘予防に努めている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを一人ひとりの能力に応じて介助している。又、義歯は洗浄日を決めて、清潔保持の支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事形態や食事を把握・管理し、主治医の指導の下、健康維持の支援を行っている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルに沿って実践している。特に新型インフルエンザに関しても、対策委員会を設立して緊急時の対応などを話し合い、研修会も実施している。予防接種も、全利用者・スタッフを対象に実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は、清潔・衛生を保持する為に、衛生管理チェック表を作成し、定期的に確認している。又、新鮮な食材の使用や管理を担当が管理するように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花を飾ったり、受付のカウンターに金魚を飼育して、親しみやすい玄関の雰囲気作りに努めている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の照明・テレビの音量などを小まめに調整し、季節の花などを飾っている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置いて、共用空間で他の利用者の方とユックリとした時間を過ごしていただけるように工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時や面会時などに、本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や食器などを持参していただき、安心して生活できるように工夫している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状態を把握しながら、小まめに温度調節や換気を一人ひとりの反応を見ながら実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を配慮して、畳・ベッドの使用を決定し、随時状態や希望に応じて対応している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の利用者に合わせて環境作りをするように考慮し、備品等の設置場所を混乱を招かないように配慮し、整備している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	窓から畑や花壇が見えるところにベランダがあるので、畑で採れたものを食卓に並べたりして、季節を感じていただいている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型サービス事業所として、文字通り『地域に密着した』ホーム作りに力を注いでいます。運動会や敬老祭、ゴミ拾いなどの地域行事には積極的に参加させていただき、ホームのお祭り際には、保育園・婦人会をはじめとする地域住民の方々にご協力を頂いています。ホームで運営している畑を周辺住民の方々と橋渡し役として活用し、地域の皆様方からも暖かくご支援を頂戴しています。アピールポイントとして、何よりもこのホーム周辺の環境と、地域住民の皆様方との信頼関係が、私達の宝物だと思っています。

ケアの面では、利用者にとって、介護を行うスタッフも大きな環境要因の一つであると考えていますので、スタッフの配置に配慮し、離職や異動を極力無くすように努め、できるだけ同じスタッフが長く同じ利用者と接することができるように取り組んでいます。